

## 3 グローバル人材育成プログラム

### 概要

グローバル化や情報通信技術の発展に伴い、ひと・もの・金・情報やさまざまな文化・価値観が国境を越えて流動化し、国際競争も一層激化しており、そうした中、G7倉敷教育大臣会合においても、教育の果たすべき新たな役割、教えや学びの向上等が確認されました。また、国内では、人口減少社会の到来により、地方創生が強く求められています。

このため、日本人としてのアイデンティティを持ち、豊かな語学力・コミュニケーション能力、チャレンジ精神や異文化を理解する精神を有し、県内外において、さまざまな分野で主体的に活躍するとともに、本県の持続的発展に貢献するグローバル人材を育成します。

### 生き生き指標

○海外の学校と姉妹校提携を締結している 県立高等学校数 <small>交換留学等につながる姉妹校提携を締結している県立高等学校数</small>	8校▶	20校
○英検準1級以上等を取得している英語担当 教員の割合 <small>文部科学省による英語教育実施状況調査結果</small>		
中学校	23.1%▶	50.0%
高等学校	55.6%▶	75.0%
○国際科学コンテスト(理科4分野)における 国内大会の参加者数 <small>理科4分野の国内大会(物理チャレンジ・化学グランプリ・日本生物学オリンピック・日本地学オリンピック)への参加者数</small>	253人/年▶	350人/年
○プログラミングコンテスト*45における参加数 <small>全国レベルのプログラミングコンテストへの参加数</small>	2団体/年▶	22団体/年

### 重点施策

#### 子どもたちの英語力の向上と国際的に活躍できる人材の育成

小・中学校における英語教育の充実や、英語力の向上を目指したセミナーの開催などにより、子どもたちの英語に触れる機会を増やすとともに、高校生や大学生等の海外留学を促進し、実践的な語学力やコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指します。

また、スーパーグローバルハイスクール\*46を核とした英語教育の充実を通じて、社会課題に対する関心と深い教養、問題解決能力等の国際的素養を身に付け、我が国や郷土の伝統・文化を深く理解した、国際的に活躍できる人材の育成を図ります。

#### グローバル化に対応した教員の育成と確保

外部検定試験を活用した教員の英語力の把握や、民間事業者等と連携した教員研修の充実、ネイティブスピーカーレベルで英語を話すことのできる人材の教員への採用等により、英語指導の質的向上を図るとともに、教員の海外派遣等により、グローバル化に対応できる教員の育成を図ります。

#### 科学技術教育の推進

小・中・高等学校において、大学等とも連携して子どもたちの科学や自然に対する興味と関心を高め、豊かな科学的素養を育むとともに、科学技術の発展を担う人材の育成のため、スーパーサイエンスハイスクール\*47を核とした理数教育の充実や、科学技術に関する先進的なプログラムの開発・実施に努めるなど、科学技術に関する教育の推進を図ります。

#### 情報化社会に対応した教育

情報化社会においては、情報活用能力の育成が求められており、プログラミングや情報セキュリティなどのICT教育の充実に努め、子どもたちのICTに対する興味を育むとともに、多様化する課題にICTを活用して創造的に取り組む力の育成を図ります。

### 推進施策

#### 時代の変化に対応した魅力ある学校づくり

生徒数の減少が進む中、学習環境の維持向上を図り、学校の活力を高めていくことができるよう、県立高等学校の教育体制を整備するとともに、地域や企業と連携しながら、地域の特色や、文化、スポーツを生かした教育活動を推進するなど、おかやま創生を担うグローバル人材の育成に向けて、時代の変化に対応した魅力ある学校づくりを推進します。

#### 大学等との連携

専門的な知見・資源を有する大学等高等教育機関をはじめ、企業、公益法人、NPOなど民間団体等との連携を推進し、学校や地域が抱える課題の解決や、子どもたちの学習活動の充実を図ります。

#### 多文化共生の地域づくりの推進

岡山国際交流センターでの在住外国人に対する生活相談や多言語による情報提供、日本語学習環境の充実を図るとともに、住民とのパイプ役となる地域共生サポーター\*48の育成等により、県民と在住外国人との交流を深め、互いの文化を理解し、多様性を受け入れ、地域社会で共に生きていく多文化共生\*49の地域づくりを進めます。

関係部局	教育委員会、総務部、県民生活部、産業労働部
------	-----------------------